

# 墓老連 ニュース

## 墓老連の目的

ボケ防止のために、老人団体同好者の誰もが  
『墓老連』としてこれが出来よう。機会と場所  
を確保するために相談会し、団体を通じて親交  
を図り、更には、より良き福祉社会の建設に貢  
献することを意願とする。

## オフ回ボケ防止のための啓発用講演!

日 付 主 催 場 所 内 容 主 要 点 参 加 資 格	時 間 催 行 方 法 特 別 規 則	年成9年2月23日午前9時 統合福祉センター（東浅川町551 浅川寺田墓老連会（会長 保屋野正子） 八王子の歴史案と老人連会（春光 八王子市、八王子市教育委員会、 浅川事務所と諸事務所管内及びめじ 元八王子市に在住している60才以上の団員 600人件（年差代を含む） 例年通り、5クラス別に行い、各クラス共3位 成績上位1、8月24日の八王子大会による 次の通り
参 加 資 格	競技方法	

## Aクラス(4歳以上)成績表

優 勝	決 勝	最 高	1 2	1 1	1 0
○	X	X X C	○	○	C
不 良	良	中	良	良	中
成 績	田	田	田	田	田
内	○	X O C	○	○	C
宮	税	神 寺	7	7	7
外	税	宮	3	3	3
X	O	O X >	○	○	>
菊	菊	藻	金	金	金
梅	梅	藻	金	金	金
川	川	田	田	田	田
13	12	11	10	9	8
梅	菊	藻	金	金	金
菊	菊	藻	金	金	金
川	川	田	田	田	田
地	地	梅	梅	梅	梅
善	善	川	川	川	川
三	三	寺	寺	寺	寺
喜	喜	寺	寺	寺	寺
群	群	寺	寺	寺	寺
喜	喜	寺	寺	寺	寺
正	正	寺	寺	寺	寺
美	美	寺	寺	寺	寺
5	5	寺	寺	寺	寺
4	4	寺	寺	寺	寺
3	3	寺	寺	寺	寺
2	2	寺	寺	寺	寺
1	1	寺	寺	寺	寺
0	0	寺	寺	寺	寺

(1)

## B 77次(2級・3級)成績表

予選

決勝戦

優勝

中島

準優勝

中島

石橋

才三位平

三位決定戦

平嶋田高進

33

平	中	石	嶋
島	橋	田	橋
辰	義	久	高
雄	彦	明	明
3	2	2	3

2	2	1	3	2	2	2	0	1	1	2	1	2	1	3	0	計	勝敗
0	×	0	0	②	0	×	X	X	X	0	×	X	0	0	X	勝敗	三回戦
中	鴻	長	金	不	江	古	松	吉	千	井	大	池	岸	中	加	好	高
平	田	崎	牙	城	口	屋	尾	崩	少	鷺	野	田	島	藤	岩		
0	0	×	0	0	0	×	0	X	②	0	②	X	X	X	0	X	勝敗
事	江	丹	北	加	金	松	吉	中	丘	不	良	不	平	鳴	奥	大	石
田	口	田	巖	井	尾	開	島	屋	崎	城	崎	田	村	野	橋	善	一回戦
X	0	×	0	X	0	0	X	0	X	X	0	0	X	0	X	勝敗	一回戦
中	石	平	志	松	奥	長	金	丹	五	吉	山	池	中	加	大	平	嶋
鳥	橋	屋	屋	尾	村	崎	井	口	井	下	田	寺	藤	善	田	田	対局者
14	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
石	中	石	平	奥	松	志	長	江	丹	山	吉	中	池	大	加	嶋	参加者
橋	島	屋	屋	尾	井	崎	口	千	浦	寺	田	野	藤	善	田	田	氏
久	義	辰	原	微	瑞	威	正	孝	源	徳	善	新	安	石	二	者	
寅	彦	雄	章	清	吉	久	雄	史	明	之	健	悟	大	男	研	二	
2	2	2	3	3	2	3	2	2	2	2	2	3	3	2	3	3	9級

## C 77次(初級・準初級)成績表

予選

決勝戦

優勝

佐久

準優勝

佐久

才三位

準決勝

佐	透	延	當
久	史	永	向
剛	英	口	一
一	好	豊	郎
初	初	初	初

2	2	1	2	1	2	2	1	2	3	0	計	勝敗
X	0	×	X	②	0	0	X	0	0	X	勝敗	三回戦
萬	所	堀	堀	不	海	当	佑	練	湯	内	吉	高
繩	井	口	11	城	波	當	向	久	尾	井	山	若
0	×	0	0	X	X	②	X	0	0	X	勝敗	一回戦
堀	佐	折	高	堀	當	不	萬	福	内	練	吉	高
川	久	井	井	口	固	城	波	庭	山	尾	若	
②	0	×	0	X	0	X	0	X	0	X	勝敗	一回戦
練	内	福	海	高	堀	堀	萬	折	佐	吉	高	高
不	義	延	老	庭	川	口	井	井	久	看	吉	高
義	透	英	波	庭	波	口	井	井	久	看		
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO.	
当	内	練	海	福	堀	高	萬	堀	佐	折	吉	参加者
間	山	尾	波	庭	川	波	萬	堀	口	久	井	氏
一	謙	英	波	波	波	波	吉	波	吉	波	吉	名
初	剛	好	豊	好	初	壽	一	泉	接	一	宣	君
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	

(2)

## D 7三尺(2級~4級)成績表

予選

## 優勝戦

大三位  
佐藤大三位  
岡口大三位  
西宮伊藤  
藤原  
和也  
幸重  
34伊藤  
藤原  
和也  
幸重  
334

2	2	3	1	3	1	1	2	0	2	2	0	計	勝敗
④	0	0	0	0	X	X	0	X	X	0	X	勝	三回戦
不	試	伊	八	不	紅	新尾	木	青	銃	11	高	着	高戦
義	先	源	地	義	九	源	崎	野	口	木	口	勝	高着
0	X	0	X	0	0	0	X	X	0	X	X	勝	二回戦
成	新	銃	水	尾	石	守	振	川	良	小	吉	着	吉戦
利	源	崎	木	崎	九	源	崎	野	口	口	北	着	吉着
X	0	0	X	0	X	X	0	X	0	0	X	勝	一回戦
木	程	石	高	八	雨	川	金	作	武	尾	多	付	付戦
程	高	源	源	源	九	口	把	室	口	木	藤	堺	堺戦
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.	
龍	水	岡	石	雨	小	松	川	武	伊	高	尾	氏	参考
野	井	九	源	源	木	源	木	藤	源	源	堺	堺	堺
芳	喜	信	盛	源	美	昭	井	悦	和	八	政	名	加名
保	西	二	年	次	一	二	一	千	翠	軍	谷	若	若谷
4	2	4	2	3	2	2	2	3	3	4	4	級	若級

## E 7三尺(5級~1級)成績表

予選

## 優勝戦

大三位  
佐藤大三位  
岡口大三位  
佐藤大三位  
大貫大網  
眞野  
三富  
好代  
98大網  
眞野  
三富  
好代  
9786

2	1	3	1	2	0	3	2	1	1	1	1	計	勝敗
X	0	0	X	0	X	0	0	X	X	X	X	勝	三回戦
綱	村	福	大	八	伴	田	國	位	綱	吉	吉	吉	吉戦
野	井	垣	貢	不	廢	倉	中	田	吉	吉	吉	吉	吉
0	X	0	0	X	X	0	0	X	④	X	X	勝	二回戦
八	佐	村	福	福	國	伴	四	野	不	大	大	大	大戦
木	縫	縫	井	井	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉
下	田	(見)	井	野	垣	田	藤	倉	吉	吉	吉	吉	吉
0	X	④	X	0	X	0	X	0	X	0	X	勝	一回戦
伊	田	木	縫	國	福	綱	村	八	位	位	田	田	田戦
野	森	森	田	田	垣	吉	吉	木	縫	縫	縫	縫	縫
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.	
前	田	伊	若	大	福	國	村	吉	佐	八	田	佐	参考
綱	縫	縫	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉
善	忠	清	三	三	年	藤	吉	正	仙	鐵	復	名	加名
好	代	好	好	神	弘	雄	代	男	吉	志	哲	若	若級
9	8	7	9	6	7	7	7	6	5	2	2	級	若級

(3)

第7回ボケ防上のための遊説用表中野大会の結果

時  
場  
所  
中野市民センター(中野町2726-1、電27-6221)  
中野青年団体連合会(会長坂本勝、みらい会2-336、電話91-4074)  
八王子の暮らし祭り老人連合(最先達)  
八王子市、八王子市教育委員会、日本精陶  
中野町、中野山丘、中野上町、みらい会、清川町及び市内の幼稚園講習会、川口市  
福井管内に在住で10歳以上、10歳以上の困難な者  
600人(年齢交代を含む)  
分クラス別に入賞者(三位迄)を決定し、賞品名義と万円。  
成績は下記下記大会に推薦の方。  
8月24日開催の八王子大会

参加者  
年  
度  
平成9年4月3日(1回着)

冰上

地区天狗決定(前期)

地区別	級	氏名	地区別	級	氏名
川	6	神宿寺 銀郎	田	3	大久保 九一
八王子	2	長澤 宏	木	初	藤村 勝郎
中野	2	鈴木 茂	水	6	山本 道三
大和田	4	一谷 淳	兵	初	佐々木 康北

第8回团体対抗戦参加者(2回戦3月16日)

地区別	氏名	地区別	氏名	地区別	氏名	地区別	氏名
川	中井	中野	北野				
6 7	城 大次郎	6 7	瀬井 徳	6 6	木原 洋治	6 6	山本 徳美
5 6	梅田 順三郎	5 5	三上 雄	5 5	坂本 勝	5 5	鎌倉 正駿
4 4	柳沢 優	4 3	福田 伸	4 4	磯部 信志	4 4	有澤 真美
3 3	山崎 亮明	3 3	松尾 雄雄	3 2	小橋 久翠	3 3	鶴津 仁
2 2	丹 駿史	2 2	坂口 国男	2 2	坂道 雄	2 2	久保 方宏
初 初	折井 雄	初 古川 中	初 関 中川 俊郎	初 初	高栗 正敏		
大和田	元吉子			由木 一	辰英		
6 6	瀬井 宏明	6 6	山下 圭文	6 6	鈴木 民平	6 7	小川 駿
5 4	根本 忠紀	5 5	清水 駿	5 4	谷原 正司	5 3	小崎 修
4 4	一谷 達哉	4 4	大塙 道三	4 4	鶴 夏翠	4 3	石井 正之
3 3	平藤 久雄	3 3	山田 実	3 3	竹原 正成	3 3	園井 一郎
2 初	宮脇 未来	2 2	山崎 錠	2 2	垣谷 通司	2 初	佐々木 康北
初 初	若林 達也	初 初	八木 達助	初 2	鴻根 四郎	初 川村 末二	

准: 工政室催牛二ム

(4)

団体対抗戦成績表(1回戦 2月16日)

川内4-1人(勝率 0.5) 元八千人(勝率 0.5)

名 別	元八 川内	6	5	4	3	2	初	勝 計
6	栗田	0	0	0				3
5	藤田	0	X	0				2
4	大河原	X	0	X				1
3	鶴村	3			X	X	X	0
2	吉田	2			0	X	0	2
初	徳良初				0	X	X	1
勝 計		1	1	1	1	3	2	9/9

中野4-1人(勝率 0.5) 大和田4-1人(勝率 0.5)

名 別	大和田	6	5	4	3	2	初	勝 計
6	中野	6	7	6	5	佐藤	4	小川川
5	木島	X	0	X				
4	黒沢	X	X	0				
3	中田	5	X	0	0			2
2	鷹山	3			0	0	0	3
初	徳松初				X	0	0	2
勝 計		3	1	1	2	1	1	9/9

北野4-1人(勝率 1) 由木4-1人(勝率 0)

名 別	由木	6	5	4	3	2	初	勝 計
6	北野	6	7	6	5	佐藤	4	内山
5	伊藤	0	0	X				2
4	新保	0	0	X				2
3	中村	4	0	X	X			1
2	水野	3			0	0	X	2
初	徳田初				0	0	0	3
勝 計		0	1	3	1	1	1	7/11

由井4-1人(勝率 1) 長井4-1人(勝率 0)

名 別	長井	6	5	4	3	2	初	勝 計
6	由井	小西	佐藤	5	松井	4	長井	4
5	藤井	0	0	X				2
4	河口	0	X	0				2
3	義田	5	X	0	0			2
2	福井	3			0	X	0	2
初	大久保	3			0	X	0	2
勝 計		1	1	1	0	2	0	5/13

日本棋院  
理事長 渡邊文夫様

平成9年2月26日

八王子市囲碁連盟主老人連合  
会長 渡邊文夫

### アマダシア全日本老人囲碁大会の開催に関する件

平成10年度に、日本棋院主催で、ボケ防止のための啓発運動と並行して  
標記の大会開催を計画致しております。

これは、碁苑連設立時からの夢を実現するため、毎年に亘り錦張灰計  
画と周到灰準備を重ねて参りました結果、一応自信の持てる態勢に到達しました  
ので、不況のような運営と目的及び、運営方針を基本として準備委員会の  
設立に踏み切りたいと決意いたしました次第です。

この際、本格的な高齢社会を迎えるに当り、"ボケ老人にどう対応すべき"が  
国家・社会に対する最後の御奉公との意識改革を求め、更上灰、老人パワーの  
喚起を促すために、全日本老人囲碁大会の開催を企図した次第です。だから  
何卒、事情は複雑の上、国家的見地の立場で、是非共、大会開催を引き受け  
て頂きたいと懇願申し上げる次第です。

記

### 1. ボケ防止関係

#### (1) ボケ老人の候補者について

老人とは、どうゆく様なひと云ふば、古戻折や企業で40年近くを一生  
懸命働き、それなりの実績を誇り、少なからぬ貢献を果して功勞着達である。  
これらの人は、先後を趣味に生き、樂しい余生を夢見てどこでも当然の事  
と確信し得る方々である。

然しながら、現実はそんなバラ色の人生など夢みないものである。

即ち、現在、文化的趣味の爱好者は20才以上の男性関係では、囲碁関係  
が一番多いと云ひられておりますが、それが在職中のことで、停年退職  
で老人生活に足を踏み入れた途端に樂しみ親しくして囲碁を始めたのは  
ほうねい羽目に追いつまれている方達が数多くいらっしゃる。

所が在職中は、休憩時間中に碁を行っている光景が、どの会社でも見受け  
られますが、棋力の程度は5級以下の方が多いようですが。

これらの方達は、平素は地元の囲碁団体との交流がございので、停年退職  
後は、所属の団体部(年齢に関係なく有資格者全体)や団体旅行へ行つ  
ても弱いので"相伴にして賞えず"、老人会に囲碁部がない等で、結果は、  
碁止めざるを得ないと云うことに陥つているようですが。  
このあたり人達が毎年の如く累増している現状で"万が一"のオカシタガルがよく  
これらの団体爱好者群が"ボケ老人には可能性が高いので"ボケ老人候  
補者と申し上げる所以です。

解説午後以降、老人会に囲碁部を開いて頂くより他に途がありません。

然しながら、この件にはいろいろと複雑な問題があり、容易に解決出来るものと不思議であります。重要なことは、高齢社会における老人の意識革命と環境の整備が急務であると言ふことである。

そのためにも、経団連と日本商工会議所が、恒久的な社会奉仕事業として停年退職者に対する後援体制を確立して復活すれば良いません。

## (2) ボケ対策の緊急要請について

ボケ予防の世界的な权威者と評価されている疾松医療センター副院長の金子瑞雄先生は、「行政機関は、"完全にボケ切るまで"年をこまねいていて何せ」と「もう直らぬ重度痴呆に基づてから言い訳のまゝに医療関係者に都合のよいことだけをやる」と嘆嘆されている。

即ち、ボケたままで放っておいて、ボケたまま見守り「よい」と云う事のようで、無責任極まる措置と非難されても容解の余地がない。

即ち、ボケ老人の家族の方達の苦労は並大抵なものではなく、ボケの初期から中期と進み、重度に基づく誤認と満足といふまでの長い期間を、精神的・肉体的疾苦痛に苛むそれ、やがては家庭崩壊などの悲惨な結果を告げている場合が非常に多い。

このようにして、文化国家で「新宿立川駅」を事柄ではなく、官僚国家日本の代表的な汚染として追及されねばなりません。

本件については、橋本首相に直接陳情し、祈念を仰いだる所定です。

## (3) ボケ予防対策について

厚生省がボケ予防対策に用心を示さないと言つたは眞實性を疑問に付し、国民の一人として懇意に懇意に心の生き残りの感情ではなく、厚生省無用論を提唱したい位です。

金子瑞雄先生は、10年も前から「ボケは治る」、「ボケは防げる」と自信を以てて公言されていると抱うず、厚生省は一顧だにせざ、アルツハイマー病に基づくからの誤りに固執している。

ボケ老人家族の悩みや苦痛等は、厚生省の耳外と云ふことであります。この際、予防対策を放棄する理由を、国民の前に堂々と披露して頂きたい。

本件については、小泉厚生大臣に仰いだる所定です。

## (4) 老人会と団体部が古い理由について

八重洲老人クラブ連盟基準(50年3月1日改訂)の老人教養講座の趣味欄には、男性の趣味である団体・游歩はなく、女性の趣味が主体となっている。更に、付則の補助取扱基準に、「卓球の競技的、娛樂的経費についての対象経費のうち個人ものと万円以上となっております。

以上の結果、老人会では団体や娛樂に入るので経費の支出は禁止され、団体部休閒設出来ない事になつてゐるようですが。

(ア)

3.

本件について、春花連設立当時、東京都福祉部に歩向し、係長さんは「ボケ防止問題」と「団体の娛樂問題」について御質問した所、「ボケ防止問題は実現していませんが、毎年1回大会を開催している」と「娛樂問題についても娛樂の中に団体が入っていることは決ってない」、従って、各老人クラブ連会が適宜処理することと仰っていましたと説明。運営仕事は即取扱でした。

その後、平成3年3月1日秋葉の運営基準の趣味嗜好に団体・将棋部・牌入会れとなり、更に付則の補助款認証基準には「卓球のみ競技的、娛樂的経営については、对象経費から除くものと万円」の項が削除されました。

然しながら、この新規定が発行されたから、今月で2回、八王子市では老人会は団基部の新規が発表されるのは2件のみです。

尚、実情は、老人クラブ自体が団基部開設を放棄しないように見受けられますが、このことは、ボケ防止問題に原則に取組んでいないと云うことで、時代が流れても存在しており、その後の役員会や団体との印象を拭うことが出来ません。

従って、現状においては、老人会対策は非常に難かしく、青島都知事殿に「老人会のボケ防止を主体とした体制開拓」を陳情する予定であります。

## 2. 全日本老人団体大会の準備活動について

- (1). 全日本老人団体大会準備委員会(将来の山口推進協議会と改組)の構成
- 会長 細田連会長  
 副会長 日本高工会議新会頭、全花連会長  
 " 梶原企楽、  
 常務副会長 日本棋院副院長

### (2). 組織の確立関係

#### 1. 目的

団基連が既に引退後も団体団基が集めのための環境を整備するため  
 に、全国の老人会に団基部の開設を要請し、"ボケ美ト"に沿うるための運営を推進方針。

即ち、金子瑞松先生は、"暮ぢたにボケなし"との宣言を追加しております。  
 日本棋院としても、確信をもって、老人会に對し、堂々とボケ防止の在りに  
 団基部の開設を要請する団体として、60才以上の有機団体会員とした"暮  
 ぢたに老人連合(略称:春花連)"を全国の各市町・村に設立する。

#### 2. 目標

- (1). アクセス全日本老人団体大会の開催(平成10年度中)  
 (2). 郡子・孫ぐるぐるチームを結成し、市町村単位で団体大会の開催(将来の夢、別記)

#### 八、春花連の組織概況

#### 二、組織の組織年次(運営基準適用)

#### 木、本会の実施審査規定

#### 八、その他

(8)

3. 将来の夢として、親子一派の3代チームにおける国際大会の開催について  
平成5年12月1日発行の「基督教ニュース」44号に掲載した下記記事を併  
参考として、お秉みだけ早い時機に便を求めており、全国の御老人に頼んで頃き  
ないと存じております。

### 「お孫さんと国際の手ほどき」を歌唱

4.

高令下社会を迎える、政府は未だ度を算せぬ者種社事業に関しては、最も  
重要な面として対応する趣旨と指取致しております。  
我々老人にとりましても、旧来の思想が「余生を、暮を樂しみながら安樂居」などと  
名義に構えている時代ではないようですが。

この際、政府の御配慮にお並んでおられたためにも、氣力を振り絞って、國や社会の  
ために一肌脱いで頂こうという寸法です。

即ち、皆さん方は幸いにも国際と云う最高の技術を持つていらっしゃるので、これを  
活用し、社会奉仕のつもりで、暮の手ほどきと共に、小学生位の御指導  
して頂きたいと存うことです。

その見返りとして、お孫さんの成長振りを樂しみながら余生を送れど等、幸福に満  
ちた老後生活を実現出来ては嬉しいじよつか。

さて、国際の機能について、次のようない説明をお知りください。

1. 小学校教育は、知識一边倒の語の込み主義を強制し、その結果として、  
無気力な脳人間が数多く出来上がっている様ですが、それに対し、国際は  
左脳の基本的訓練、即ち、思考力、創造力、記憶力、更には、集中力、忍耐  
力、判断力などを養成し、自然の中に、論理的应用力、全体を見渡す目を養う  
など、柔軟な思考方法を身につけるのである。

2. 国際は単なる遊びと考え、危険のせりぎになるなどと考えている人は、全く時代  
遅れを感じる。

即ち、希望は左脳を中心とする左脳主体であるために、むろん希望で遊ぶ  
左脳を国際で活性化させると効果が認められていて。

3. 将來、日本を背負って立ち、世界平和に貢献し得る人材を確保するためには、  
積極的に右脳開発に努力し、知育、体育、美育、ボーランドのバランス  
のとれた人格の持ち主を養成せねばならぬ。

即ち、国際は、その目的達成のための重要な要素を含めているのである。

4. 前記3項目で申し述べたように、有能な人材の育成が主眼であつて、暮の  
人間を作るのが目的ではないと云うことを理解して頂きたい。

次に、特に国際の手ほどきについて、御参考までに示しますが、1才から3才までの  
初期、基礎知識をおもじりとして自由に遊ぶ形。

次第に訓練していくに従って、その並べ方を教れたり、2人での対話を見せたり等、知ら  
が知らざるの中にも、暮は一人ではなく、簡単に「自由なゲーム」だが複数がおり、創造  
があり、未知の世界への探究の興味、魅力のようなものを感じさせ、いわゆる、感情  
を身につけるのである。

但し、次のようほ三つの重要なポイントに留意しなくてはなりません。

即ち、オ1は、入り込もうと思ふこと、オ2は、説明は採用で初めこと（説明は  
説明は4才以降でなくては判らない）、オ3は、初歩が免がないこと、等である。

理解する事と知る事は全く別である。その結果が現われる所は4才以降で、  
素晴らしい能力をもつて開花する事は必定である。

以上

(9)

八王子市老人クラブ連合会  
会長 雅葉 嶋城雄様

平成9年2月12日

八王子の基を象徴した老人連合  
会長 熊崎正一

老人会に団基部開設の陳情に関する御依頼の件

早速返がう失礼します。  
此度、2月7日付を以つて、八王子市長 波多野重雄殿に提出した「地  
区老人会に団基部開設の御指揮を仰願する陳情の件」の宣を該部  
同封御届け申し上げまつたので、何易仕中懇縮には存じまつたが、何幸御快  
カトといまうよう御配慮の程、大ろしく御願い申し上げまつた。  
尚、昨年末の臨時総会で本件が議決されたことを聞いたとかで、お二人の方  
の大御元の電報がありましたべ、平測にいかつた事なので、とまとつてしまい、  
反響の重々々に驚いてゐる次第である。

御参考までに、お一人の方の電報内容を御報告します。

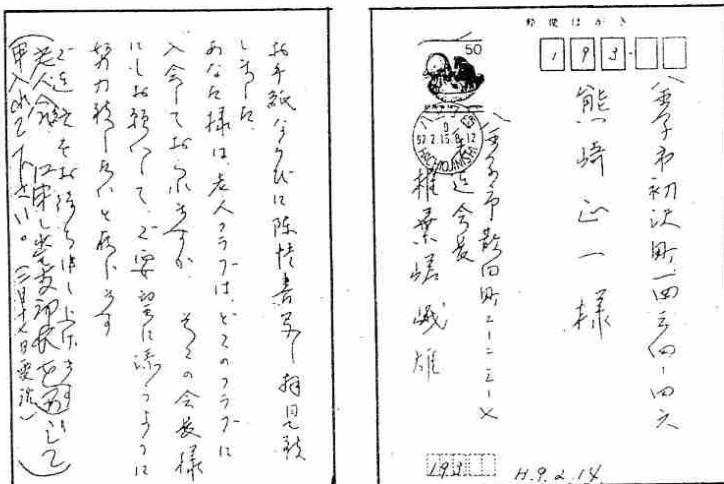
「公社で永年の間、休憩時に基を樂こんでおり、暮メテ云われるとほど基が  
好きでした。」

停年退職後も基を続ケたいと思ひ、老人会に団基部が反いので、已も灰く  
基会所へ参りました所、レ級位と云われましたが、何処へ行つても相伴  
はされないので、残念ながら諂ひざみを得ませんでござります。」

所が、基先達の右世翁で、来年4月より基が行てるような事など、私にてて  
は、「早天の強烈」のようなもので、取り急ぎ御札の電報」と云うこと  
になつたよう次第である。

その妻がおうほ目に写るようで、基行うては判らぬい御得友ものがあ  
るのでではないでしょつか。

光は、取急ぎ要用の件。



雅葉会長からの早速の御返事です。心から感謝しております。今後共よろしく。  
(10)